

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
訪問調査日	平成21年6月16日
評価確定日	平成21年8月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
所在地	〒895-0031 鹿児島県薩摩川内市高江町1655番地 (電話) 0996-23-1201

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年6月16日	評価確定日	平成21年8月6日

【情報提供票より】(平成21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋建造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 81 歳	最高 100 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若松記念病院 可愛クリニック 若松歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはデイサービス、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、介護保険対象外宿泊施設と併設している。周囲は山々を望む田園地帯にある。ホーム内に居ながらにして山々から春は山桜、新緑、秋は紅葉などの季節感を味わえる。田園では今は田植え、秋は稲刈りと生活感を望めるのどかな環境にある。管理者は開設当初から地域住民との関わりの重要性を認識し、地域貢献を積極的にを行い、地域の協力者とともに地域交流を密に行なっている。運営者の「人は人で見ると云う信条に基づき、職員数も余裕をもって採用している。利用者の表情は穏やかで職員はもちろんのこと、家族、地域に支えられ、毎日を和やかに過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>同業者との交流については出水・川薩地区グループホーム協議会にも加入、職員の出席の機会を増やして職員資質向上に取り組んでいる。また、自然災害に対しては地震訓練を実施し、非常用備蓄など今後も継続的に取り組みサービス向上につなげていく。地域との関係作りとして毎年地域の方々に年賀状を出し新年の挨拶を行なっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を振り返りの機会と捉え全員で行っている。自己評価、外部評価の結果は職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催している。会議ではホームの活動状況、利用者の現状報告、その他の課題を討議している。外部評価の結果を報告しメンバーの意見、要望、助言をもらっている。ホーム側からの要望(峰山公園にトイレ、水道の設置)を、運営推進会議メンバーより行政に働きかけ実現した例もあり、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に意見や要望を聞いている。面会簿の横にアンケート用紙を設置したり家族参加の行事の際、意見や要望を聞く時間を設けている。出された意見は職員会議で話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入り、地域住民と挨拶や声掛けができています。地域の強力な支援をもらい地域の催しに積極的に参加している。管理者は地域介護予防教室で認知症について講演したり、大学の非常勤講師として貢献している。小・中学校の職場体験学習や大学の実習も受け入れている。利用者手作りの味噌を地域の販売店に出したり清掃作業などにも参加し、連携を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしくを第1の理念に、「地域との関わりの中でその人らしい人生の継続支援を行なう」を掲げ、みんなで話し合い、管理者、職員の想いのこもった事業所独自の理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、理念の唱和を行い、日々のケアが理念の実践になっているか確認し、共有化を図っている。家族には入居時、面会時、地域には自治会の総会時に説明している。また、ホーム便りにも掲載し、利用者の家族、地域住民各戸に配布している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、顔見知りとなり、朝夕の挨拶、声掛けができています。地域の強力な支援があり地域の催し(夏祭り、運動会、コンサート、文化祭、保育園のお遊戯会)に積極的に参加している。地域介護予防教室で認知症の理解や接し方の講演をしたり、大学の実習も受け入れている。利用者手作りの味噌を販売店に出したり、清掃作業などにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を振り返りの機会と捉え、全員で行っている。自己評価、外部評価の結果は職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。外部評価の結果は家族、運営推進会のメンバーにも配布、指摘された項目の改善報告も行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの活動状況の報告、利用者の現状報告その他の課題を討議している。外部評価の結果を報告し、メンバーの意見、要望、助言を貰っている。ホーム側からの要望(峰山公園の水道、トイレ設置など)を、コミュニティ会長が市、県に陳情、実現した例もあり、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行う介護保険サービス提供事業者連絡会において各事業所が抱える問題や課題など話し合う機会があり、意見交換している。連絡会において歯科医の口腔機能向上についての講演、実技があり利用者へのサービスの質向上につながっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状態や日々の暮らしぶりを直接話したり、利用者の日頃の様子の写真をホールに掲示し、見てもらっている。遠方の家族には毎月の利用料請求時に暮らしぶりや健康状態を記し、園便りや写真を同封し報告している。金銭管理は金銭台帳のコピーや領収書の確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望を聞いている。面会簿の横にアンケート用紙の設置や、家族参加の行事の際、意見や要望を聞く時間を設けている。苦情に関しても行政、その他外部機関の苦情窓口を重要事項に明示している。出された意見はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者、職員はなじみの関係の重要性を認識している。「人は人が見る」をモットーにしているので勤務体制にもゆとりがある。昨年の退職者は0である。以前に病気で退職した職員も時々ホームを訪れ、利用者との親睦を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は学びたいことを年間計画に立て、毎月15日ミーティング時定期的実施している。外部研修にも全職員が平均的にできるだけ多く受講できるようにし、出席できなかった職員は研修報告書の回覧で学習し、全員が共有できている。また、資格取得できるよう支援し、向上心を持って働き続けるための取り組みができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会、地区のグループホーム協議会、その他の研修会などで他の事業所間交流研修を行い、サービス向上に繋げている。当ホームの見学も多く受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族にホームを見学してもらい、他の利用者や職員とふれあい、コミュニケーションをとり、納得してもらい不安なく入居できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の心にあるものを話してもらい、傾聴、受容、共感し、職員も相談にのってもらったりしている。職員は利用者は人生の先輩であるという考えを共有し、介護される側、介護する側と意識せず日々の生活を支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生き方、生活習慣などの情報をもとに、日々の関わりの中で職員は本人の話に耳を傾け、本人のすべてを受け入れることにより、思いや意向把握に努めている。意思疎通の難しい利用者は家族からの情報を得て対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いを第1に個別ファイル、家族の思い、意向を聞き職員全員で日々の関わりの中での気付きなど意見交換を行い、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎のモニタリングを含め介護計画の期間に応じた見直しを実施している。利用者の状態に変化があった場合は随時担当者会議を開催し、話し合い、計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診の送迎、リハビリ通院付き添い、主治医・メンタル医の往診、早期退院の支援、お寺参り、墓参り、美容室への送迎など必要に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族などが希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。主治医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、終末ケアや長期医療が必要な状態になった場合のホームの対応について、納得してもらい契約している。状態変化に応じ、主治医や家族と話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は居室へ入る際の声掛けをはじめ、日々の生活の中で利用者の尊厳や羞恥心に配慮したケアを行っている。個人情報についても記録の管理、守秘義務の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は基本的な1日の流れに沿って動いているが、利用者のその日の体調や気持ちを大切に一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなメニューを聞き、栄養士(職員)が献立を作成する。(調理専門職員を1名採用し、全職員の負担を軽くしている。)利用者と職員と一緒に下ごしらえ、配膳、片付けをしている。食事中は音楽を流し、職員と語りながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(月、水、金)と決めているが、職員は毎日入浴の支援をしているため利用者の体調や気分に応じ柔軟に対応している。入浴の都度お湯の入れ替えを行い、入浴順も交替で、時間、湯温も利用者の好みで楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴から得意分野(味噌づくり、梅干づくり、カラオケ、菜園など)を活かしてもらい、みんなで共有し楽しみにつなげている。また、生活の中でその人の能力に合った役割をしてもらい、感謝の言葉や賞賛の言葉を伝えている。張り合いのある生き方ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や本人の体調や気分に応じ外気浴、散歩、買い物、ドライブ(野鳥観察、四季で変わる山々の観賞、墓参り)など、外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は掛けず(センサーあり)、見守りを中心とした支援を行っている。居室の鍵は昼夜掛けていない。常時見守りの必要な利用者の居場所確認表を作成し、10分毎に居場所を記録し、職員間で共有しながら安全を図っている。徘徊に対してはデイサービス職員、地域の方々との連携が取れている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーの設置、年3回の火災避難訓練(20時から実施)、地震訓練、非常食の備蓄を行っている。地元協力者で自衛消防組織をつくり、協力を得ている。市の防災課より防災マップを貰い、防災に備えたり、自治会の総会や運営推進会議で地域の協力体制にも働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士(職員)が栄養のバランス、1日の必要カロリー計算をして献立作成し、摂取量についても記録、把握している。水分量についても飲水の都度、ホワイトボードに記入し、1日の水分量を把握して日々の変化に注意し支援している。体重測定も月1回実施し体重変化にも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関サイドに季節の草花、花木があって季節感を出している。ホーム内は天井が高く天窓から採光を取り入れ、広いホールは食堂・コの字に置かれたソファ・テーブルを囲むコーナーと3区分され、一角には畳のスペースもあり寝転べる空間も確保されている。デッキスペースからは周囲の山々や田園風景が眺められ季節の移り変わりを目や肌で感じとれる居心地の良い共用空間づくりになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には番地と名前が掲げてあり、自宅から位牌をはじめ、冷蔵庫、テレビなど必要な電化製品を持ち込み、また、家族や以前飼っていた猫の写真、好きな花鉢を飾ったり、一人ひとりの個性を重んじた落ち着ける居場所になっている。各居室に温度計を掛け、利用者一人ひとりに応じた室温管理を行っている。		